

Wacom Chapter 2

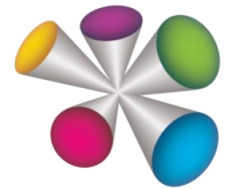
ワコム第2章と事業戦略

大和インベスター・リレーションズ
個人投資家向け会社説明会 in 大阪

株式会社ワコム（東証1部：コード 6727）

2018年12月8日（土）

for a creative world™



wacom®

目次 (注) 本日配布させて頂いている「紙資料」と「スライド投影」とは、事例紹介等で一致しないページがあります。予めご了承ください。

(スライドページ番号と主な記載内容)

<u>03-11</u>	会社の歩み、主な事業区分、製品とユーザー事例紹介等
<u>12-14</u>	ワコム第2章 (Wacom Chapter 2: 中期経営計画) について
<u>15-20</u>	全社戦略、重要取り組み事項、2022年3月期での経営指標の目標
<u>21</u>	資本政策と株主還元の考え方
<u>22-30</u>	2019年3月期 (第36期) 第2四半期連結決算概況
<u>31</u>	2019年3月期 (第36期) 通期連結損益予想
<u>33</u>	(資料編) 中期経営計画 主連結損益・財務指標
<u>34-47</u>	(資料編) 2019年3月期 (第36期) 第2四半期連結決算
<u>48-55</u>	(資料編) 2019年3月期 (第36期) 通期連結決算予想
<u>56</u>	本資料のお取り扱い上の注意点

wacom®

WA/和
HARMONY

COMPUTER
COMMUNICATION

人間とコンピューターとの間に
「調和」を創出する

35年間

デジタル・ペンとインクに取り組んできました



1987

世界初コードレス
ペンタブレット



1988

ペン付き電話



1998

プロのクリエイター仕様
初代ペンタブレット

主な事業区分

ブランド製品事業

- **クリエイティブ ビジネス (クリエイティブユーザー向け)**
製品ライン: ペンタブレット、ディスプレイ、モバイル
- **ビジネスソリューション (法人向け)**
製品ライン: 電子サインタブレット、液晶ペンタブレット他

テクノロジーソリューション事業

- **スマホ・PC・デジタル文具パートナー向け技術ソリューション**
製品ライン: デジタルペン センサーシステム 他

インク・ ディビジョン (部門)

- **デジタルインク、
ソフトウェア
ソリューション等**

製品ライン:
デジタル文具
(コンシューマ
向け)他

(注) **その他の事業** (エンジニアリングソリューション事業: CADソフトウェア) は、2017年12月1日付の会社分割で新設した子会社に当事業を承継し、同日付で当該子会社の全株式を日東工業(株)へ譲渡しました。

クリエイティブ ビジネス

<製品例>



wacom®
Cintiq Pro



<ディスプレイ製品>



<モバイル製品>

wacom®
MobileStudio Pro



wacom®
Intuos

wacom®
Intuos Pro



<ペンタブレット製品>

クリエイティブユーザー向け用途事例

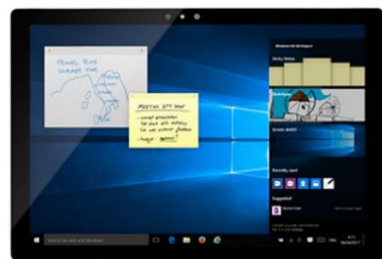
ワコムのデジタルペン技術は、映画制作や自動車の工業デザインなどのスタジオで働くクリエイターを支えています。

(事例)

- ・ 米国ハリウッドを中心に、「スターウォーズ」など**コンピューターグラフィックス(CG)を使った映画制作**のスタジオで、デジタルペンが活用されています。
- ・ 米国ディズニーなど国内外の制作会社による**アニメーション制作**で、描画・色づけなどにデジタルペンが活用されています。
- ・ **ゲームソフト制作**の場でリアルな造形を描写するためにデジタルペンが活用されています。
- ・ 自動車メーカーでの自動車デザインなどの**工業デザイン**にもデジタルペンが活用されています。



デジタル文具（コンシューマ向け）



Windows

BAMBOO™ Ink



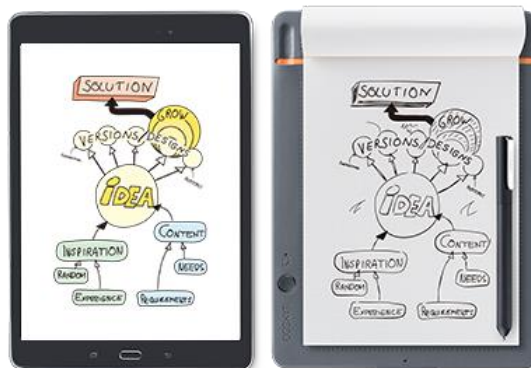
MAKING
IDEAS



WILL

Wacom Ink
Layer Language
(デジタルインク)

BAMBOO™ Slate



BAMBOO™ Folio



ビジネスソリューション（法人向け）

電子サインシステム



銀行口座開設 電子サイン端末（シティバンク）



クレジットカード決済 電子サイン端末
ららぽーと（三井不動産商業マネジメント）



ワコム クリップ
ボード



液晶サインタブレット



テクノロジーソリューション（部品・技術提供）

デジタルペン採用機種例



Lenovo



SAMSUNG
Galaxy Note
series



ANDROID



chrome



chromebook Pixelbook

FUJITSU

TOSHIBA



STAEDTLER®

MONT
BLANC



お客様へ最高のデジタルペン体験を



ワコムは
「テクノロジー・カンパニー」
として新しい一歩を踏み出します。

Wacom “*Chapter 2*”

「*Life-long Ink*」

ユーザーの方と共に、
終わりのなき創造の旅に出る。

デジタルインク、無限の可能性

「誰が、どこで、いつ、どんな気持ちで
これを書いた・描いたのか」

-人間の「**文脈と軌跡**」を捉える-

全社戦略

1. Technology Leadership

テクノロジー・リーダーシップの推進

2. Island & Ocean

アイランド & オーシャン(島と海のビジネス)
による緊密な連携

3. Extreme Focus

大胆な選択と集中

テクノロジー・リーダーシップ

お客様との対話を通じて「**技術革新**」を提供する。

「技術革新」で、手書き/手描きのチカラをお伝えする。

島(island)と海(ocean)のビジネス

アイランド = ブランド事業
オーシャン = テクノロジー事業

それぞれ違う使命を持った事業、

緊密に連携させて成長させる。

大胆な選択と集中 (extreme focus)

全ての事業領域で、
全てのオペレーションで、

「**大胆な選択と集中**」
を実施する。

重要取り組み事項

- **顧客志向**の技術革新
- 組織/オペレーションの**改革**
- **利益**を重視した財務体質の確立
- 取締役会改編による**経営の質向上**

2022年3月期での経営指標の目標

収益性: 連結営業利益率 **10%**

規模: 連結売上高 **1,000億円**

資本効率: 株主資本利益率(ROE) **15～20%**

資本政策と株主還元の方

資本構成: 経営環境の変化に応じた対応力(投資拡大等)の強化のため、
当面は財務の健全性確保に重きを置く。

資本効率: ROEを指標とし、株主の要求コストである株主資本コストとの
相対関係($ROE > \text{株主資本コスト}$)を測るうえでの目安とする。

株主還元: **配当は1株当たりの配当金を安定的に成長(増配)させる
ことを方針、配当性向は補助的な指標として30%を目安**
とする。特別配当や自己株式の機動的な取得についても検討する。

第2四半期連結決算概況のご説明 2019年3月期（第36期）

開示日：2018年11月5日

for a creative world™

wacom®

第2四半期（2018年4-9月期）連結決算概況

- 連結売上高 **463億円**（前年同期比 14％増）
 - 連結営業利益 **27億円**（前年同期比 82％増）
 - 連結当期純利益 **20億円**（前年同期比 18％増）
- 第2四半期は、**7-9月期で過去最高となる売上高(284億円)、営業利益(31億円)、当期純利益(21億円)を記録**
- **テクノロジーソリューション事業での需要の早期化による大幅増収増益**が、ブランド製品事業での減収減益を超過

第2四半期（2018年4-9月期）事業セグメント概況 - 1

ブランド製品事業

- 売上高 **207億円**（前年同期比 8%減）
- セグメント利益 **19億円**（前年同期比 26%減）
 - ペンタブレット製品は競争関係の変化により中低価格帯モデルの新製品の市場浸透が進まず減収
 - ディスプレイ製品も新製品の供給が市場の需要を十分に満たせず僅かに減収、供給対応の一時費用も発生
 - これらなどに起因した製品ミックス悪化から大幅減益

第2四半期（2018年4-9月期）事業セグメント概況 - 2

テクノロジーソリューション事業

- 売上高 **256億円**（前年同期比 43%増）
- セグメント利益 **50億円**（前年同期比 40%増）
- スマートフォン向けおよびタブレット・ノートPC向けともに
需要の早期化と拡大により大幅増収増益

第2四半期（2018年4-9月期）の歩み

for a creative world™

wacom®

WinHEC

2018

“Microsoftとの協業発表”

- ワコムとマイクロソフトのペン協業モデル
- ユニバーサル・ペンの体験訴求





“Google Pixel slateにペン搭載”

- グーグルの最新PC ピクセル・シリーズにワコムのペン搭載
- グーグルのエコシステム(ビジネス生態系)へのペン浸透



“VR + デジタルインク” 協業POC発表

gravity
sketch



- VR (仮想現実) 空間の中での描画
- 2D (2次元) の描画と同じデジタルペン、同じデータフォーマット
- 2DとVR空間を往来する体験

POC: 実証用試作機 (Proof of Concept)

“MR + デジタルインク” 協業POC発表



- MR (複合現実) 中での描画
- 描画を共有/コラボレーションする体験

POC: 実証用試作機 (Proof of Concept)

2019年3月期（第36期）通期連結損益予想

- 連結売上高 **890億円**（前期比 8%増）
 - 連結営業利益 **40億円**（前期比 13%増）
 - 連結当期純利益 **30億円**（前期比 26%増）
- **連結売上高予想を10月12日付で上方修正（前回予想比 +40億円）**
- 連結利益予想は、前回予想（5月11日付）を据え置き
- 事業セグメント別予想の概要
- ブランド製品事業**：製品ミックス悪化や米国の対中関税発動の影響による利益減少リスクなどから
前回予想より収益性が低下する見込み
 - テクノロジーソリューション事業**：需要拡大とそれに伴う収益性改善から**前回予想より売上高、セグメント利益とも上回る見込み**

for a creative world™

ご清聴ありがとうございました。



(資料編) 中期経営計画 主な連結損益・財務指標

(単位：百万円)

		2018年 3月期 実績 (第35期)	2019年 3月期 予想 (第36期)	2022年 3月期 計画 (第39期)	CAGR 年平均 成長率
内 数	売 上 高	82,263	89,000	100,000	5%
	ブランド製品事業	48,173	50,300	60,400	6%
	テクノロジーソリューション事業	33,648	34,700	39,600	4%
営 業 利 益		3,527	4,000	10,000	
営業利益率		4.3%	4.5%	10.0%	
当期純利益		2,362	2,980	6,948	
ROE		11%	13%	15-20%	
自己資本比率		44%		約60%	
1株当たり配当金		6円	6円	未定	

テクノロジーソリューション事業は、事業特性に鑑み、短期で損益予想は変動する可能性がある。よって不確実の高い収益機会は計画せず現時点で想定しうるリスク要因は優先的に計画に反映。

(資料編) 第2四半期連結決算
2019年3月期 (第36期)

for a creative world™

wacom®

第2四半期（2018年4-9月期）連結財務サマリー

経営成績	当期実績	前年同期比
売上高	46,263百万円	+13.7%
営業利益	2,734百万円	+ 82.1%
経常利益	2,912百万円	+77.4%
当期純利益	1,975百万円	+18.0%

財務指標	当期実績	前年同期比
1株当たり純利益	12.16円	+1.85円
1株当たり純資産	147.25円	+9.64円

(参考)

平均為替レート	当期実績	前年同期比
1 USドル	110.07円	-1.2% (円高)
1 ユーロ	129.88円	+2.6% (円安)
1 中国元	16.68円	+1.3% (円安)

第2四半期（2018年4-9月期）連結損益計算書

- **販管費率の低下が進み**（次ページ説明有り）、粗利率は低下するなかでも**営業利益率は前年同期を上回る**

	第35期H1	第36期H1	対前年同期比較	
	17年4-9月期	18年4-9月期	増減額	増減率
売上高	40,689	46,263	5,574	13.7%
売上総利益(粗利)	15,703	15,727	24	0.2%
売上総利益(粗利)率	38.6%	34.0%		
販管費	14,202	12,994	- 1,208	-8.5%
販管費率	34.9%	28.1%		
営業利益	1,501	2,734	1,233	82.1%
営業利益率	3.7%	5.9%		
経常利益	1,642	2,912	1,270	77.4%
当期純利益	1,674	1,975	301	18.0%

（単位：百万円）

販売費及び一般管理費の主な内訳

・ 販管費の最適化により12億円減少、販管費率は6.8pts低下

	第35期H1	第36期H1	対前年同期比較		(単位：百万円)
	17年4-9月期	18年4-9月期	増減額	増減率	
人件費	4,833	4,801	-32	-0.7%	
研究開発費	2,061	1,826	-235	-11.4%	(1)
販促・広告宣伝費	1,544	1,348	-196	-12.7%	(1)
外注費	1,227	990	-237	-19.3%	(2)
減価償却費	678	601	-77	-11.4%	
その他	3,859	3,427	-432	-11.2%	(3)
販管費合計	14,202	12,994	-1,208	-8.5%	
売上高販管費率	34.9%	28.1%		-6.8pts	

- (1) 前年同期は新製品リリースに伴う研究開発費や販促費の水準が高く、また今期の第2四半期は商戦期前での費用投下時期を見極めて管理したことにより減少
- (2) グローバル基幹業務システムに関連した経費の削減
- (3) 前年同期に貸倒引当金繰入(2.3億円)を計上したことおよびその他の経費の削減

第2四半期（2018年4-9月期）事業セグメント別損益

（単位：百万円）

	第35期H1	第36期H1	対前年同期比較	
	17年4-9月期	18年4-9月期	増減額	増減率
売上高 計	40,689	46,263	5,574	13.7%
ブランド製品事業	22,442	20,661	-1,781	-7.9%
テクノロジーソリューション事業	17,902	25,602	7,700	43.0%
その他の事業	345	--	-345	-100.0%
営業利益 計	1,501	2,734	1,233	82.1%
ブランド製品事業	2,549	1,880	-669	-26.3%
テクノロジーソリューション事業	3,531	4,958	1,427	40.4%
その他の事業	-39	--	39	-100.0%
調整額(コーポレート他)	-4,541	-4,105	436	-9.6%
営業利益率	3.7%	5.9%		

事業ハイライト -売上高-

ブランド製品事業 207億円 前年同期比 -8%

・クリエイティブビジネス 170億円 同 -10%

(内数) ペンタブレット製品	93億円	同 -11%
ディスプレイ製品	63億円	同 -2%
モバイル製品	14億円	同 -32%

- ペンタブレット製品はプロ向けが僅かに売上を伸ばした一方で、市場環境の変化から、コンシューマ向け中低価格帯の新製品の市場浸透が進まず減収
- ディスプレイ製品は新製品の供給が市場の需要を十分に満たすことができず、僅かに減収
- モバイル製品は製品ライフサイクル後期に入った既存製品の売上が減少し、大幅減収

wacom®
Intuos



wacom®
Cintiq Pro



wacom®
MobileStudio Pro



事業ハイライト -売上高-

ブランド製品事業

・ コンシューマビジネス 12億円 前年同期比 -27%

- ウィンドウズ・インク対応スタイラス製品が昨年6月の発表から1年を超え販売が減速し減収

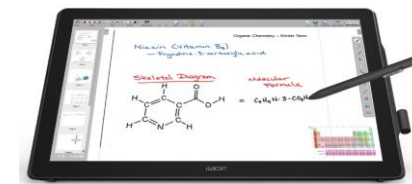


・ ビジネスソリューション 25億円 同 +24%

- 北米において金融機関向け液晶サインタブレットや教育機関向け液晶ペンタブレットの販売増加が寄与し増収



STU-540



DTH-2425

事業ハイライト -売上高-

テクノロジーソリューション事業 256億円 前年同期比 +43%

・スマートフォン向け

ペン・センサーシステム 118億円 同 +80%

- サムスン社の最新モデル向けの需要が早期化し、加えて今期は既存モデル向けの販売継続があり大幅増収

・タブレット・ノートPC向け

ペン・センサーシステム 138億円 同 +22%

- アクティブES (AES) ペンの需要が早期化し、メーカー各社から高い評価を獲得し需要も拡大したことにより増収



(参考) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2018年 3月末	2018年 9月末	増減額
流動資産	42,195	51,802	9,607
固定資産	8,714	10,061	1,346
資産合計	50,910	61,863	10,953
流動負債	16,752	26,572	9,820
固定負債	11,489	11,358	-131
負債合計	28,241	37,930	9,689
少数株主持分	0	0	0
純資産合計	22,668	23,933	1,265
負債純資産合計	50,910	61,863	10,953
自己資本比率	44.5%	38.7%	-5.8pts

増減の主な内容

資産

(単位：億円)

- ・ その他流動資産の増加 35
- ・ 売上債権の増加 35

上記は主にテクノロジーソリューション事業の売上拡大による

- ・ たな卸資産の増加 30

上記は主にブランド製品事業の商戦期前の在庫による

負債

- ・ 仕入債務の増加 93

純資産

- ・ 株主資本の増加 10

上記は主に利益剰余金の増加による

(参考) 連結キャッシュフロー

(単位：百万円)

	第35期H1	第36期H1	対前年同期 比較
	17年4-9月期	18年4-9月期	増減額
営業活動	-244	2,275	2,519
投資活動	-603	-2,057	-1,453
財務活動	2,030	-950	-2,980
現金に係る換算 差額	702	266	-435
現金増減額	1,884	-466	-2,350
現金期首残高	14,205	19,157	4,952
現金期末残高	16,089	18,691	2,602

2018年4-9月期の主な内容

営業活動

(単位：億円)

- ・ 仕入債務の増加 92
- ・ 税金等調整前当期利益 28
- ・ 売上債権の増加 -68
- ・ たな卸資産の増加 -28

投資活動

- ・ 無形固定資産の取得 -11
- ・ 有形固定資産の取得 -8

財務活動

- ・ 配当金の支払い -10

(資料) 通期連結決算予想 2019年3月期 (第36期)

for a creative world™

wacom®

2019年3月期（第36期）連結損益予想の前提

通期想定為替レート

1 USドル = 111円 前期通期平均レート比 0.2円 円安 **修正前 105円**
1 ユーロ = 130円 前期通期平均レート比 0.6円 円安 **修正無し**

為替感応度予想(通期・12ヶ月分)

(単位：百万円)

感応度の単位	1円当たり（円安の場合） 各通貨とも、円高の場合は影響額の符合が逆					
	19年3月期予想 （修正後）		19年3月期予想 （修正前）		（参考）18年3月期実績	
通貨	USドル	ユーロ	USドル	ユーロ	USドル	ユーロ
売上高	+630 (+520)	+110	+580 (+470)	+120	+710 (+450)	+100
営業利益	+50 (-20)	+70	0 (-70)	+80	+130 (-40)	+50

(注) アジア通貨による感応度については、「予想」ではUSドルに連動する想定でアジア通貨のエクスポージャーをUSドルのエクスポージャーに含めて試算、「実績」ではアジア通貨の影響額をUSドルの影響額に含めて試算（カッコ内はUSドル通貨単独による感応度を示す）

2019年3月期（第36期）連結損益予想 前年同期比

（単位：百万円）

	第35期H2(実績)		第36期H2(予想)		対前年同期比較
	17年10月-18年3月期		18年10月-19年3月期		増減額
売上高	41,574		42,737		1,163
営業利益	2,026	4.9%	1,266	3.0%	-760
経常利益	1,943	4.7%	1,008	2.4%	-935
当期純利益	688	1.7%	1,005	2.4%	317

	第35期（実績）		第36期（予想）		対前期比較
	18年3月期		19年3月期		増減額
売上高	82,263		89,000		6,737
営業利益	3,527	4.3%	4,000	4.5%	473
経常利益	3,585	4.4%	3,920	4.4%	335
当期純利益	2,362	2.9%	2,980	3.3%	618
ROE	11%		13%		--

2019年3月期（第36期）事業セグメント別損益予想

（単位：百万円）

	第35期 (実績)	第36期 (予想)	対前期比較	
	18年3月期	19年3月期	増減額	増減率
売上高 計	82,263	89,000	6,737	8.2%
ブランド製品事業	48,173	49,000	827	1.7%
テクノロジーソリューション事業	33,648	40,000	6,352	18.9%
その他の事業	442	--	-442	-100%
営業利益 計	3,527	4,000	473	13.4%
ブランド製品事業	6,470	6,500	30	0.5%
テクノロジーソリューション事業	5,678	5,900	222	3.9%
その他の事業	-65	--	65	--
調整額（コーポレート他）	-8,556	-8,400	156	-1.8%
営業利益率	4.3%	4.5%		

2019年3月期（第36期）連結損益予想 前回予想比

（単位：百万円）

	第36期H2(前回)		第36期H2(予想)		対前回比較
	18年10月-19年3月期		18年10月-19年3月期		増減額
売上高	43,670		42,737		-933
営業利益	3,170	7.3%	1,266	3.0%	-1,904
経常利益	3,250	7.4%	1,008	2.4%	-2,242
当期純利益	2,320	5.3%	1,005	2.4%	-1,315

	第36期（前回）		第36期（予想）		対前回比較
	19年3月期		19年3月期		増減額
売上高	85,000		89,000		4,000
営業利益	4,000	4.7%	4,000	4.5%	0
経常利益	3,920	4.6%	3,920	4.4%	0
当期純利益	2,980	3.5%	2,980	3.3%	0
ROE	13%		13%		--

2019年3月期（第36期）事業セグメント別損益予想

（単位：百万円）

	第36期 （前回）	第36期 （予想）	対前回比較	
	19年3月期	19年3月期	増減額	増減率
売上高 計	85,000	89,000	4,000	4.7%
ブランド製品事業	50,300	49,000	-1,300	-2.6%
テクノロジーソリューション事業	34,700	40,000	5,300	15.3%
営業利益 計	4,000	4,000	0	0.0%
ブランド製品事業	9,700	6,500	-3,200	-33.0%
テクノロジーソリューション事業	2,590	5,900	3,310	127.8%
調整額（コーポレート他）	-8,290	-8,400	-110	1.3%
営業利益率	4.7%	4.5%		

2019年3月期（第36期）研究開発費、投資計画予想

研究開発費

50億円（前期比 14%増） **修正無し**

- 主な内容：テクノロジー・リーダーシップの推進に向けた新製品開発、次世代技術開発他

資本的支出

33億円（前期比 118%増） **修正前 23億円**

- 主な内容：ブランド製品事業およびテクノロジーソリューション事業の製品量産金型、無形固定資産取得他

減価償却費

26億円（前期比 7%増） **修正無し**

- 主な内容：製品量産金型および稼働中のグローバル基幹業務システムの減価償却費

2019年3月期（第36期）株主還元策

利益分配の基本方針

- ・ 将来の事業展開と財務体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続と機動的な自己株式の取得を基本方針とする。

1 株当たり配当金予想 **修正無し**

- ・ 配当金 6.00円（前期実績 6.00円）
- ・ 配当性向 32.7%（同 41.2%）

本資料のお取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済や当社の関連する業界動向、新たな技術の進展などにより変動する事があります。従いまして、実際の業績などが本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。

株式会社ワコム
インベスター・リレーションズ

〒160-6131 東京都新宿区西新宿8丁目17番1号 住友不動産新宿グランドタワー31階
TEL：03-5337-6502
<http://investors.wacom.com/ja-jp/index.html>

for a creative world™

